

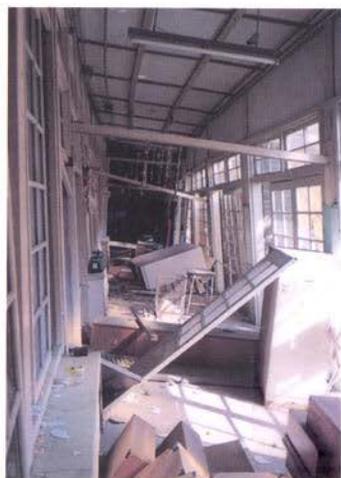
神戸市立幼稚園  
阪神・淡路大震災記録集

お日さま

いっぱい

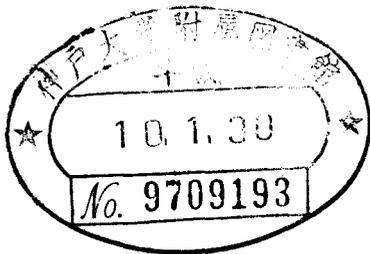


神戸市立幼稚園長会編著



神戸市立幼稚園 阪神・淡路大震災記録集

「お日さまごっけい」



神戸市立幼稚園長会 編著

—子供たちの幸せを願い 感謝をこめて—

## はじめに

神戸市立幼稚園長会長 南 佑子

平成七年一月十七日 午前五時四十六分 予想だにしなかった阪神・淡路大震災が、わが街神戸を襲いました。多くの貴い命が失われ、街は壊滅的な被害を受けました。

神戸市立幼稚園でも、四名の園児が亡くなり、全壊した園二園、大修理を要する園三十五園という未曾有の大惨事となりました。困難な状況の中で、私たち教職員は、子供たちの笑顔と全国の皆様方の励ましを大きな支えとして、神戸市立幼稚園の教育の再生と創造に向け一歩一歩あゆみ続けて参りました。

震災三周年を目前にした今、当時神戸市立幼稚園の教職員は、何を感じ、どんな生活を送っていたか、また、次々と起こる難問に対してどのように取り組んだか等の生の声を収録して、記録集として残しておくことは、「震災体験を生かす教育」を実践するためにも意義あることだと考えました。

そこで、神戸市立幼稚園長会の三部委員会の一つである「環境教育委員会」が中心になり、震災記録集を編集いたしました。

発刊に当たっては、神戸市教育委員会並びに神戸市PTA協議会より、深いご理解とご支援を賜りましたことに感謝し、ここに報告させていただきます。

この記録が、温かいご支援をいただいた全国の幼稚園の「防災教育」に少しでも役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、執筆編集にご尽力いただきました先生方に厚くお礼を申し上げます。

## 発刊によせて

平成六年度 神戸市立幼稚園PTA連合会会長 中 村 三四郎

会長を退任して、すでに一年半が経過しました。

これまでに前例のない都市直下型の激震を経験して、数多くの課題を見ることができました。同時に多発した火災や幼児の安否確認、破壊された園舎の修復、避難所の経営やそのあり方等々であります。

しかし、大変不幸な出来事ではありませんでしたが、今までこれほどまでに、人恋しく、人をいとおしく思い、家族や地域との人間関係を深めたことは、かつてなかった事でした。この震災を通して、いい経験もさせていただいたと思うのは、私だけではないと思います。

後になりましたが、全国公立幼稚園PTAからの義援金、また来訪など本当にありがとうございました。

平成七年度 神戸市立幼稚園PTA連合会会長 明 澤 邦 壽

あの未曾有の震災の年、私は、はからずも全く未知の世界のPTAの大役を仰せつかることとなった。教育とは無縁の日々を過ごしていた身には、震災後の混乱と相まって、PTAという組織そのものの理解から始めなければならなかった。まさしくPTA一年生で、諸先生方をはじめ、役員の皆様方には、何かとご迷惑をお掛けしたことと思ひ、この紙上をお借りし、あらためてお礼とともに、お詫び申し上げます。

先の震災では、有形無形を問わず、失ったものは数限りがない。あらゆる社会問題が、各家庭に、個人

に、何の準備も無いまま降りかかってきたのである。

しかしながら、「ボランティア元年」といわれたこの年、あの震災の最中、だれに指図されるでもなく、人々は等しく「ヒューマニスト」であり、ここに社会教育の原点を見た思いがしたのであった。

私自身、PTA活動を通じ、子供の健全なる成長には、家庭・幼稚園・地域の連携が重要であることを痛切に感じている。例えば、家庭にあつては、知恵の部分を負い、幼稚園では、生涯教育の出発点の集団の場として、また、地域にあつては、人が支え、支えられる関係であるということ、子供とともに、日々学んでいきたいと思つている。そして、「災い転じて福となす」との諺の如く、あの震災で得たヒューマニズムを、心に刻んでいきたいと願つている。

今、女性の社会進出、少子化、核家族化、高齢化社会の到来と、子供を取り巻く環境は日々変化している。社会のニーズにそつた今後の幼稚園の在り方を期待したい。

平成八年度 神戸市立幼稚園PTA連合会会長 印 野 泰 博

平成七年一月十七日早朝、突然の大地震に襲われ、大変な被害が発生した。

私は、それから一年余りを経過し、やや平静を取り戻した、平成八年の春に神戸市立幼稚園PTA連合会会長に就任した。

この震災直後の大混乱の中、ご自身の事情を顧みず、早期復旧にご尽力いただいた園長先生はじめ教職員の方々、並びに平成六年度PTA役員の皆様方には心より感謝申し上げます。また、平成七年度役員の方

方々にも、復旧途上の非常に不自由な環境の中で、先生方と共に関係各方面に対して本当に様々の活動をしていただきました。お陰で、私が会長をお引き受けした時には、被害を受けた園舎や施設等もごく一部を除いて、ほとんどが従来通りあるいはそれ以上に復興をしております。そして何より、この震災で心に大きなダメージを受けた幼児たちを励ますための活動も数多く実施され、どんなにか子供たちの心を和ませていただけたものと深く感謝申し上げます。

避難所になった園、全壊のため小学校の教室を借りて保育を続けられた園、そんなきびしい環境の中でも、幼児たちには常に笑顔で明るく接していただいた先生方、本当にありがとうございます。

さて、天災は何時やってくるかわかりません。保育時間中には起こらないという保証も有りません。予知も困難、止めることもできないとなると、あとは「いかに備えるか？」しかないと思います。この冊子を是非ご一読いただき、物の備えと共に気持ちの備えのご参考にしていただければと思います。

なお、この冊子発行にあたり、神戸市PTA協議会よりご援助を頂戴致しました。ご報告申し上げますと共に、紙面をお借りし御礼を申し上げます。

## 阪神大震災とこれからの幼児教育に思うこと

平成九年度 神戸市立幼稚園PTA連合会会長 山本賢正

この度、「震災記録集」を出されるにあたり、あの一月十七日の朝のことが頭の中に鮮明にあらわれて

きました。今までに経験したことがない大地震で大変な被害が出ました。町のいたるところでは、火災が起こり、家やビルがこわれ、多数の人が犠牲になりました。

あれから三年を迎えようとしておりますが、幹線道路や港湾施設の復旧は終つても、一步住宅地に足を踏み入れると、空き地が広がり、住宅の復興は遅々として進んでおりません。子供たちの遊び場となる公園も仮設住宅が建ち、遊ぶことができません。

そのなかで、震災で壊れたり、いたんだりにしていた幼稚園の新築や補修が順次終わり、神戸市立幼稚園教育が平常に戻ってきたことは喜ばしいことであります。

しかし、一方では、震災で人の命の尊さを身をもって感じたであろうはずなのに、命にかかわる残念な事件が起こつてしまいました。けれども、これをきっかけに、幼児期の教育の重要性が見直されてきたことは、幼稚園教育にかかわる者にとつても深く考えさせられることであります。県と市の教育委員会の呼び掛けで「心の教育に関する学校・家庭連絡会議」が開かれ、幼稚園から高校まで、一貫した心の教育のあり方について協議をしております。自然とのふれあい得る命の尊さを幼児期のうちにしっかりと身に付けさせるよう、幼稚園教育にたいして希望するしだいです。また親として相手の立場になって行動できる子供たちを育てていくよう努力していきたいと思っております。そして、あの震災で得た教訓を今後に生かすよう、あらためて心にちかうものです。

## 目次

はじめに 神戸市立幼稚園長会長 南 佑子…………… 3

発刊によせて…………… 4

### 第一章 震災直後

一 ニワトリさんちゃんと逃げたかな…………… 14

震災体験をバネにして／「くすのき」の木片に願いを託して／  
在園児の安否確認／「幼稚園は立っています」／惨禍の中で

二 ようちえん いっぱひまるの…………… 32

避難所となった幼稚園／「ようちえん、いっぱいまるの？」／  
「先生、おはよう」の声につつまれて／

視覚障害児の安否確認と避難所での様子／—遠いなんて言ってもらえせん—

### 第二章 園再開

一 また、みんなで遊ぼうね…………… 44

阪神大震災―「震度百です」―／震災直後の幼児の遊び／

あの日より二か月、忘れ得ぬ日々／「砂場で遊びたいね」／  
将来の建築に役立つことを願って―全国各地の建築家とのお便り交流―  
会える日を楽しみに―お友達とお母さんの手紙―／「やっと水が出たよ」  
「ピョンちゃん、元気をだしてね」／「お湯足りてますか」  
みんな一緒／(地震の避難訓練)

二 負けるな がんばれ

62

震災後から再開を願って／二園合同保育での工夫／  
震災後の三園合同保育に向けて／小さなつぶやきから

三 二階が一階になってもてん

72

震災時のポートアイランドと、一時入園した他園児との交流／  
被災地の幼児を受け入れて学んだこと／たくましく生きようと／  
一時避難の幼児を受け入れて／「私は悲しくないの、お母さんが心配なの」  
自然あふれる環境の中で／「二階が一階になってもてん」

四 強い心をもった小学生になってください

84

「いつまでもお空から見えてください」／  
「ごまでとんでいくの」―願いを風船に託して―

第三章 復興を願って

一 鬼が追いかけてくるの

92

「もうちょっとで死ぬとこやってん」／幼児と母親が残してくれた宝物／

避難所から登園する幼児を温かく迎えて／  
心のなごむひとときを―おひさま組の生活のなかで―／  
被災幼児の「心のやすらぎ保育事業」について

二 神戸のことを思ってくださいあってありがとう

「五木ひろしさんと歌う会」に参加して／ドレスデンからのプレゼント／  
たくさんの方々からの贈り物

三 前みたいにお化粧してよ

それでも元気だよ／「フレフレ K O B E」だいすき H Y O G O！／  
ゆづるは神社に行つて／園庭復旧の日まで／「あっ砂や」はだして遊ぼう／  
「ジャンボがこわれてる」／障害者にもやさしく―保護者のことば―／  
指しゃぶりもなくなる―保護者からの手紙―／震災体験を生かして

## 第四章 再生をめざして

一 ぼく、どきどきしたわ

「あっ、六甲山も地震でけがしてるんや」／  
「緑いっぱい幼稚園で、もっと一緒に遊びたいな」／西野幼稚園の門出／  
思いっきり遊ばせたい―西野幼稚園との交流保育―／  
仮設住宅の人々との交流

二 また、来てね

「子どもの部屋」の開設／「ありがとう、また来てね」／

「今、できること」をさぐりながら

三 おへや、ピカピカ ..... 148

幼稚園の環境を地震対策の面から見直す／

赤い屋根と時計がシンボルの新園舎／

地域に響く、幼児の明るい声

## 資料

・ 阪神・淡路大震災における幼稚園としての対応 ..... 160

・ 通園路の調査 ..... 174

・ 「震災対応マニュアル」の作成について ..... 179

・ 震度七・活断層図と園配置図

あとがき ..... 183

(本文中の幼児名は仮名です)